

県直営による公の施設の管理運営状況

施設の名称	群馬県立ぐんま天文台
所在地	吾妻郡高山村中山6860-86
所管部局・課	教育委員会 生涯学習課

1 施設の設置根拠(法律、条例等)

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第30条、群馬県立ぐんま天文台の設置及び管理に関する条例

2 施設の役割

(1) 設置目的

天文学に関する県民の理解を深め、もって教育・学術及び文化の発展に寄与するため、群馬県人口200万人到達を記念した後世に残る文化資産として、県民が天体観望によって天文学に親しめる機会を提供し、天文教育普及を図るために設置

(2) 設置当初の状況

ア 本物の体験、イ 開かれた利用、ウ 学校や生涯学習との連携、エ 観測研究、オ 国際協力という5つの基本方針の下に運営

(3) 施設を取り巻く現状

「公共施設のあり方検討委員会」の中間答申後、人員・経費の半減に取り組んできたが、平成25年10月に、開設後14年が経過し、県民の価値観の多様化や、施設を取り巻く社会・経済情勢も大きく変化してきたことから、設立当初からの基本方針を改正し、今後の運営基本目標を「天文学の教育普及に重点を置き、『天文学を通じて学校・地域と協働し、多様な学習機会を提供する教育施設』として、効率的な施設運営と利用者の拡大に努め、県民に親しまれるぐんま天文台として運営する。」と定めた。

これに伴い事業実施方針を、Ⅰ 本物の体験、Ⅱ 開かれた利用、Ⅲ 学校・地域との協働と定め、事業に取り組んでいる。

3 施設の概要

設置年月日	平成11年4月1日
敷地面積(所有者)	69,625.00平方メートル(群馬県) 4,970.26平方メートル(高山村からの借地) 合計74,595.26平方メートル
主な施設(床面積、階数等)	建築面積1,743.38平方メートル、延床面積3,346.15平方メートル、本館棟地上3階建、11メートルドーム棟地上3階地下1階建、7メートルドーム棟地上3階地下1階建、観望棟地上1階地下1階建
建設費	5,523,000千円

◇入園料・利用料等 (円)

◇利用時間(休館日)

区分	金額	
一般	個人300円 団体(20人以上)240円	<3～10月> 10:00～17:00 施設見学、19:00～22:00 天体観望 <11～2月> 10:00～16:00 施設見学、18:00～21:00 天体観望
大学生・高校生	個人200円 団体(20人以上)160円	
中学生以下、障害者手帳を持つ方及びその介護者1名は無料		休館日: 月曜日(火曜日夜間は機器メンテのため閉館)

4 施設における実施事業

- 天文台施設運営
施設見学・天体観望・ホームページ等施設公開
- 教育普及
天文学のすそ野拡大事業（天文授業サポート、出張天体観望会、望遠鏡操作指導）
天文セミナー（天文学校、談話会等開催）
イベント開催（定時イベント、県民の日イベント、流星群等観望会、スタンプ・クイズラリー等実施）
学校教育等支援（小中学校・高校（SSH含む）の学校利用プログラム（幼稚園・保育園を含む））
その他普及事業（イベントカレンダー作成配布、望遠鏡操作資格講習会実施、tsulunosライブ配信、講演会（出前なんでも講座等）、観測体験時間、星のソムリエ養成等（地域機関、関係団体等との連携を含む））
- 観測研究
望遠鏡保守、共同研究（埼玉大学・三菱電機）

5 管理運営コストの状況

施設の管理運営に係る収支 ※施設の管理運営に係る県の歳入・歳出を記載

（千円）

区 分	5年度（決算額）	4年度（決算額）	3年度（決算額）	2年度（決算額）	元年度（決算額）	H30年度（決算額）	H29年度（決算額）
歳 入 ①	4,533	4,678	2,618	3,110	4,621	7,059	4,756
使用料	3,009	3,346	1,314	1,569	4,299	5,787	3,849
雑入（自販機電気料・科研費等）	789	597	291	1,306	87	654	289
受託事業収入（研究受託）	500	500	500	0	0	0	0
財産運用収入（自販機設置料）	235	235	235	235	235	618	618
寄付金	0	0	278	0	0	0	0
歳 出 ②	192,348	206,038	168,189	172,701	161,698	164,544	274,984
常勤職員	92,770	96,901	95,218	94,651	93,739	90,557	91,205
非常勤職員	8,728	7,173	8,891	8,528	8,123	8,016	7,898
修繕・工事費	5,351	8,448	9,912	3,085	1,460	5,179	13,297
委託費	47,644	66,605	44,746	38,813	28,737	28,737	127,645
その他	37,855	26,911	9,422	27,624	29,639	32,055	34,939
歳入・歳出の差額（①－②）	-187,815	-201,360	-165,571	-169,591	-157,077	-157,485	-270,228
歳入・歳出の主な増減理由	【歳入】コロナ感染症の影響で令和2年3月以降は使用料が減少したが、現在は回復傾向 【歳出】望遠鏡の大規模な改修がある年度は、例年と比較して高額になる傾向						

6 職員の状況（各年度4月1日現在）

（人）

	5年度	4年度	3年度	2年度	元年度	H30年度	H29年度
常勤職員	10	10	10	10	10	10	10
非常勤職員	5	5	5	5	5	4	4
合 計	15	15	15	15	15	14	14

7 施設利用の状況
年度別の利用者数

区 分	5年度※1	4年度	3年度	2年度	元年度	H30年度	H29年度
年間利用者総数(人)	19,672	18,831	10,062	9,843	30,310	39,786	28,210
有料利用者数(人)	10,005	10,495	4,370	5,240	14,043	19,323	13,061
無料利用者数(人)	9,667	8,336	5,692	4,603	16,267	20,463	15,149
目標利用者数(人)※2	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000
施設稼働率(%)※3							
稼働率対象施設(設備)							
利用者の主な増減理由	・令和2年1月以降新型コロナ発生の影響で、来館者数が急激に減少した。 ・入館制限の解除やコロナの5類移行に伴い、来館者数は回復傾向にある。						

※1 令和5年度末時点の利用者数

※2 目標利用者数を設定していない場合は無記入

※3 施設稼働率の概念が当てはまらない施設は無記入

8 必要性及び管理運営方法についての方向性

区 分	内 容
施設の必要性	ぐんま天文台は、国内最大級の大口徑望遠鏡等を活用した体験施設であり、次代を担う子どもたちに対し本物体験及び感動の機会を提供し、自然に対する探求心や科学への興味、豊かな感性を育むことのできる貴重な施設である。 土日等は夜間も開館し一般に天体観察の機会を提供している他、学校教育を補完する理科等の校外学習の場として、日中だけでなく希望に応じて平日の夜間も対応している。 令和5年度は19,672人の来館者があり、学校利用は133校2,895人であった。 観光に資する施設として県外からの利用も多く、地域の観光資源としての役割も果たしている。
指定管理者制度	「口径1メートル以上の望遠鏡を持つ地方自治体設置の公開天文台」に関する調査(H26年4月)では、対象9施設中、指定管理者制度を導入していたのは2施設のみ(うち1施設はPFI)であった。また、直営7施設のうち1施設は、一度指定管理者制度を導入したものの後に直営に戻したものであった。 また、この調査の後、指定管理者制度を導入していた「かわべ天文公園」(日高川町)は、専門職員が全員退職してしまっただけで運営が立ちゆかなくなり、平成26年12月から天文台・プラネタリウムを閉鎖している。 ぐんま天文台についても、教育施設としての性格から採算性がなく利用料金制は採用できず、高度な専門性が必要なため受け手となる具体的な団体の候補がない。 こうしたことから、指定管理者制度による運営方法は難しいものと考えられる。
業務等の見直し	平成21年度～24年度の「公共施設のあり方に関する中間報告」における提言を踏まえた見直しとして、次のような見直しに取り組んだ。 ・常勤職員の削減(開館時(H12)18人 → (R5)10人) ・管理運営費の削減(各種業務委託の見直し)や、事業の見直しによる経費削減(H20 約182百万円 → R4 約109百万円)
施設運営に当たっての課題	開館から25年以上が経過し、施設・設備の老朽化が進んでいる。 ・冬期の降雪を含め厳しい気象環境下にあるため、施設や設備の老朽化・劣化が早い。 ・望遠鏡等の精密機器は特別製作品であるため、維持・改修費が高額である。 ・建物は磯崎新氏のデザインのため、許可なく構造物の増改築が困難である。